

平成 19 年 4 月 11 日

財団法人大阪国際交流センター
情報企画課長 谷口 悟郎
TEL : 06-6773-8182

第 6 回 日本ヨーロッパ文化交流デイ 「大学教育のネットワーク～ヨーロッパと日本から～」開催および参加者募集

日本ヨーロッパ文化交流デイ実行委員会（事務局：（財）大阪国際交流センター）は、平成 19 年 5 月 27 日（日）、大阪国際交流センターにおいて、「第 6 回日本ヨーロッパ文化交流デイ『大学教育のネットワーク～ヨーロッパと日本から～』」を開催します。

この事業は、毎年、在大阪のヨーロッパ文化交流機関と大阪国際交流センターがヨーロッパと日本の文化交流促進のために実施しているもので、第 6 回目となる今回は、ヨーロッパにおける国を越えた大学間のネットワークや、日本とヨーロッパの大学間の交流についてヨーロッパ各国の専門家によるパネルディスカッションを通じて紹介します。

ヨーロッパでは、大学での単位の相互交換システムなどが整っており、多様な教育サービスが提供されています。その例として、高等教育機関での単位相互交換制度（エラスムス・プログラム）や、言語能力測定方法（CEF）の開発、大学間連携などについて、専門家にお話しいただく予定です。また、日本（関西）の大学におけるヨーロッパの大学等教育機関との国際的ネットワークやヨーロッパの教育機関についての情報もご紹介いただきます。

このパネルディスカッションへの参加者 140 名を募集します（無料）。教育関係者をはじめ、ヨーロッパへの留学をお考えの市民の方々のご参加をお待ちしています。

記

- 日 時： 平成 19 年 5 月 27 日（日）13：00～18：30
事例発表およびパネルディスカッション
- 会 場： 大阪国際交流センター 2階「さくら」
- テ ー マ： 「大学教育のネットワーク～ヨーロッパと日本から～」
- パネリスト： ベルギー：ヨハン・ヘーンチェンス（エラスムス・ムンドゥス プログラム・ディレクター）
フランス：ダニエル・アレクサンドル（日仏大学会館館長）
ドイツ： イレーネ・ヤンゼン（ドイツ学術交流協会（DAAD）東京事務所長）
英国： リチャード・ハリソン（神戸大学助教授）
日本： 嘉数勝美（独立行政法人国際交流基金 日本語事業部長）
- 対象および定員： 140 名（先着順）
- 使用言語： 英語／日本語（同時通訳あり）
- 参加費： 無料
- 申込方法： はがき、ファックス、Eメールのいずれかで、①郵便番号・住所②氏名

③電話番号④参加人数を明記のうえ、下記申込先までお送りください。
追って参加票をお送りします。

申 込 先： (財) 大阪国際交流センター「日本ヨーロッパ文化交流デイ」係
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町 8-2-6
電話： 06-6773-8182 ファックス： 06-6773-8421
Eメール： johokikaku@ih-osaka.or.jp

主 催： 日本ヨーロッパ文化交流デイ実行委員会
(財) ベルギーフランドル交流センター、大阪日仏センター＝アリアンス・フ
ランセーズ、ドイツ文化センター、日本・スペイン文化経済交流センター＝エ
クステンション、関西カタルーニャセンター、ブリティッシュ・カウンシル大
阪センター、(財) 大阪国際交流センター

助 成： 駐日欧州委員会代表部、EUジャパンフェスト日本委員会（申請中）、
駐日フランス大使館、ドイツ学術交流協会、カタルーニャ州政府（申
請中）

エラスムス・ムンドゥス

欧州の学生・教員交流プログラム「エラスムス」は、高等教育機関の学生や教員の欧州域内でのモビリティ（移動性）を高め、他国で学んだり経験を積むことを支援するものです。その後、2003年12月の決定により、EUをセンター・オブ・エクセレンス（卓越した研究拠点）として促進するために、第三国との協力を目的とした「エラスムス・ムンドゥス」が、5年間（予算2億3,000万ユーロ）の予定で始動しました。

この修士課程を対象としたプログラムには、(1) 欧州の少なくとも3カ国のコンソーシアムが提供する「エラスムス・ムンドゥス修士課程」創設、(2) 域外からの留学生（修士課程）や研究者向けの奨学金援助、(3) 国境を越えた大学間でのパートナーシップ締結、(4) 欧州の高等教育に対する関心を高めるためのプロジェクトの支援・第三国の大学との単位相互認定の支援などが含まれます。

これまでに、100の「エラスムス・ムンドゥス修士課程」が創設され、域外からの約5,000人の修士課程学生を支援、4,000人以上のEU加盟国の大学院生が域外で研究を行いました。また、このプログラムは欧州の域内・域外の教員も支援しており、それぞれ1,000人の教員が参加しています。第三国の高等教育機関とのパートナーシップの数も100件以上になっています。

（駐日欧州委員会代表部 ホームページより）

CEF

Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment

外国語の教授、学習、評価のためのヨーロッパ共通参照枠（ヨーロッパ言語共通参照枠組み）

ヨーロッパにおける言語教育のシラバス、カリキュラムのガイドライン、試験、教科書、などの向上のために詳しい共通基盤をあたえることを目的に、欧州評議会（Council of Europe）が制定。

対象者：言語教育に関わるすべての人（学習者、言語教師、テスターなど。教育行政関係者、公的試験機関を含む。）

出版言語：英語、独語、仏語、ポルトガル語、イタリア語、スペイン語、ハンガリー語、チェコ語、バスク語、カタルーニャ語、ガリシア語、グルジア語、フィンランド語、セルビア語、ウクライナ語、ロシア語、モルドバ語、日本語（18言語）

（AJE（ヨーロッパ日本語教師会）HPより）

◆ 日本ヨーロッパ文化交流デイとは・・・

日本とEUの文化交流を促進することを目的に、平成14年度より大阪国際交流センターが在阪のEU各国文化機関と共催で開催しています。EU各国・各地域から専門家や研究者をパネリストに迎え、市民がEU各国の多彩で豊かな文化を一度に横断的に知る機会を提供します。

第1回から第5回までは日本-EU文化交流シンポジウムとして実施し、第6回目となる今回から、日本ヨーロッパ文化交流デイとして名称を変更し、実施します。

【開催実績】

平成14年度

第1回「この小さな星で共存していくために」

平成15年度

第2回「ヨーロッパDE日本のマンガ 大暴れ だそうです!!!」

平成16年度

第3回「多文化の彩りー社会における多様性の魅力」

平成17年度

第4回「Youth2Youth (ユース・トゥ・ユース) ～日本-EU 青年交流の強化に向けて～」

平成18年度

第5回「絵本でふれるヨーロッパ ～そのことばと文化～」